

咽頭結膜熱（プール熱）

Q.1 咽頭結膜熱とは どのような病気ですか。

- アデノウイルスの感染により、発熱（38～39度）、のどの痛み、結膜炎といった症状を来す、小児に多い病気です。
- プールを介して流行することもあるので、プール熱と呼ばれることもあります。
- 通常、6月ごろから徐々に流行しはじめ、7～8月にピークとなります。

Q.2 咽頭結膜熱にかからないためには どうすればいいのですか。

- 流行時には、流水とせっけんによる手洗い、うがいをしましょう。
- 感染者との密接な接触は避けましょう（タオルなどは別に使いましょう）。
- プールからあがったときは、シャワーを浴び、目をしっかり洗い、うがいをしましょう。

Q.3 咽頭結膜熱にかかったら どうすればいいのですか。

- 特別な治療法はありませんが、ほとんど自然に治ります。吐き気、頭痛の強いとき、せきが激しいときは早めに医療機関に相談してください。

国立感染症研究所感染症情報センターでは、ホームページ上で、咽頭結膜熱について解説していますので、こちらもご参照ください。

アドレス http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k03/k03_14.html

感染性胃腸炎

Q.1 感染性胃腸炎とは どのような病気ですか。

- 食品や水を介して各種のウイルスや細菌に感染し、発熱、下痢（水様便、血便など）、腹痛、悪心、嘔吐などの胃腸炎の症状を来す病気です。発熱が先行し、下痢が遅れて出現したり、発熱を伴わず、下痢のみのこともあります。
- 人やペットから接触感染することもあります。
- 潜伏期間は病原体によりますが、おおそ下記のとおりです。

病原体	食中毒における代表的な原因食品	潜伏期間 ^(※)
腸炎ピブリオ	魚介類の刺身、すし類	10～24時間
サルモネラ	卵および卵製品、洋菓子類、加熱不十分な食肉	5～72時間 平均12時間
病原大腸菌 (腸管出血性大腸菌以外)	弁当や給食を原因とする事例の発生があるが、多くの事例では原因食品の特定が困難	12～72時間
カンピロバクター	鶏肉、牛生レバー、殺菌不十分な井戸水	2～5日
ロタウイルス	飲料水、食物	1～3日
ノロウイルス	カキなど貝類	1～2日

(※) 病原体に感染してから、病気の症状が出るまでの期間

Q.2 感染性胃腸炎にかかったら どうすればいいのですか。

- 水分をこまめにとり、水分不足（脱水症）に注意しましょう。
- 特に、体力の弱い乳幼児、高齢者は水分と栄養の補給を十分に行い体力が消耗しないようにしましょう。強い下痢止めの薬は使用しないようにしましょう。

国立感染症研究所感染症情報センターでは、ホームページ上で、感染性胃腸炎について解説していますので、こちらもご参照ください。

アドレス http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k03/k03_11.html

厚生労働省では、ホームページ上で、カンピロバクター、ノロウイルスに関するQ&Aを掲載していますので、ご参照ください。

カンピロバクター <http://www.mhlw.go.jp/qa/syokuhin/campylo/index.html>
ノロウイルス <http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html>